

## 居宅支援事業所より ～BBQ・おやつづくり～

### ～BBQ～

今年の夏は猛暑でしたが、居宅支援事業を利用されている方は体調を崩すことなく毎日元気に通園されていました。

そのような中、毎年恒例となっている『放課後等デイサービスセンターぱすてる』と『生活介護事業所まいせるふ』合同のバーベキューとスイカ割り行事が、8月10日に行われましたのでご紹介します。

朝から快晴に恵まれ、気温は30℃を超えていましたが、皆さんバーベキューの準備をする様子を窓から眺め「まだかな～まだかな～」と心を躍らせていました。お肉が焼きあがるまで利用者さんは昼食に食べるおにぎりを自分で作りました。お椀にラップを敷きその上にご飯を盛り、ラップでご飯を包み丸めます。色々な形のおにぎりが出来上がり、披露しあうと笑顔があふれました。

お肉も焼き上がり、さぁ！バーベキューの始まりです！！「美味しい！お肉お替り！！」「もっと食べたい」等の声が飛び交い、とても賑やかなひと時となりました。

午後はみんなでスイカ割りです。スイカを割る人がタオルで目隠しをし、みんなの「みぎ～。ひだり～。まえ～まえ～。」のかけ声に導かれて進みます。しかし、なかなかスイカに棒は当たらず、それでもやっとなスイカが割れるとみんなの「やった～！」という歓声が上がりました。スイカはとても甘く、みんなで美味しく頂きました。

暑気払いが目的の恒例イベントですが、夏の風物詩を肌で感じ、季節感と情緒が育まれるよう、今後も楽しい企画を考えていきます。



### ～まいせるふ・おやつづくり～

『生活介護事業所まいせるふ』では、毎月最終金曜日におやつづくりを行っています。普段は作業を頑張っている皆さんですが、この日は仕事をお休みし、一日を通して大好きなおやつづくりを行います。

これまではクレープ、ゼリー、みたらし団子など様々なおやつにチャレンジしてきました。果物を食べやすい大きさにカットしたり、各々自由に盛り付けをしたりと個性豊かな品々となります。自分で作って食べるおやつは一層美味しく感じられるようで、完成時は皆さんから毎回素敵な笑顔がみられます。

完成時、皆さんから毎回素敵な笑顔がみられます。普段は他の皆さんと一緒に行動するのが難しい利用者さんも、おやつづくりには興味を持って輪の中に入ってくださいませ。また、「自分で作って食べる楽しさ」を経験し、食育に結びつく効果も期待して、これからもおやつづくりを企画していきたいと思ひます。

(生活支援員 工藤 亜紀)



### 編集後記

連載コラムが始まりましたが、いかがだったでしょうか？  
また、今回は男子ユニットの日常や取り組みについて触れましたが、次回は女子ユニットの紹介をさせていただきます。次号でまたお会いしましょう！

(保育士 西村 和真)

新聞

# 岩木山

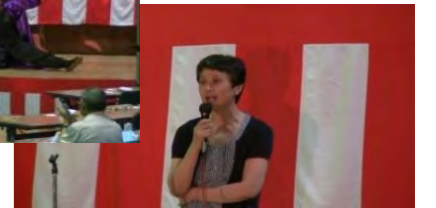
発行者 拓光園グループ  
総合施設長 木村 めぐみ  
弘前市大字百沢字東岩木山2628  
電話 0172-96-2331  
編集 拓光園新聞係

## 雨天の中での納涼祭

8月24日の納涼祭当日はあいにくの雨模様。前日まで、利用者さん・職員共に「台風がそれますように！」と願っていましたが祈りは届かず、強力な台風20号は近付いたため、今年度は体育館での開催となりました。



(弘前大学よさこいチーム)



それでも、利用者さん・職員の熱気は冷めることなく、会場内の熱は徐々に高まっていきます。舞台発表では、利用者さんのカラオケから始まり、拓光園アクティブチームによる黒石よされの披露。弘前大学よさこいサークルの勇壮な演舞は思わず目を見張るほどの迫力でした。納涼祭のメインイベントである歌謡ショーでは、津軽民謡歌手かすみ様御一行の素晴らしいパフォーマンスにより会場の盛り上がりは最高潮に達しました。ご参加された利用者さんやご家族の皆さんから「楽しかった」「良かった」との嬉しいお声をいただきました。

雨天の中での開催となった平成最後の「拓光園納涼祭」でしたが、職員一同無事成功だったと思っております。来年は元号も新たになる年です。今まで以上に、より一層盛り上がる内容を企画したいと思います。

最後に、ご家族やご来賓、地域の皆様方をはじめ、悪天候にもかかわらず多くの方々にご来場いただきましたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。

## 親子旅行（黒石コース）

今年も親子旅行の季節がやってきました！平成30年度の親子旅行・第1弾は、7月12日に行われた「黒石コース」です。メインは「～こけしに色付け体験をやってみよう～」でした。というわけで、向かった先は黒石市の『津軽こけし館』です。

記念写真を終えてから、こけしの色付け体験を行いました。「色付け体験はしたことがない」と話されるご家族の方や利用者さんも多くおられ、色選びに迷いながらも皆さん“自分だけのこけし作り”に夢中になっていました。カラフルな色合いで個性を出す方や「シンプルが一番！」と、一色のみにする方など、様々なこけしができあがっていました。

完成後はあちらこちらで、できたこけしを自慢し合う様子も♪

昼食は、『南田温泉ホテルアップルランド』に移動し、様々な郷土料理が入ったお膳を頂きました。あまりの美味しさに、普段は少食な利用者さんもペロりと完食！(^^)！満足そうな表情を浮かべ「美味しかったよ」のひとことには私たち職員も思わず笑顔になってしまいました。

さて、第1弾の旅行は体験が中心となった旅行でした。皆さんに楽しんでいただけたかどうか旅行係一同ドキドキしています。9月は「盛岡コース」が、10月は「東京1泊コース」が控えていますが、どのコースも皆さんに楽しんでいただけるように、より一層気合いを入れて計画を進めていきたいと思ひます。

※この度は、急な旅行の日程変更で皆様にご迷惑をおかけいたしました。改めて、この場をお借りしてお詫言申し上げます。(生活支援員 野口 紗耶)



## 利用者の日常 ～男子ユニット編～

### 1・2番ユニット

私たち1・2番ユニットの日常は、今年度から新しい支援方法を次々と導入したことで、以前と比べて大きく変わりつつあります。

それは、①利用者さん一人ひとりに役割を持っていただくこと  
②一人ひとりに合ったわかりやすいスケジュールの導入です。

「何をどのように、どれくらいの時間で、その結果どうなるのか」を具体的にハッキリと示す支援というのは職員にとっても新たなチャレンジであり、試行錯誤の日々を送っています。今年度最初の「新聞 岩木山」の中で、木村総合施設長が述べた今年の拓光園の目標である「変わる」を目指して、まずは園での過ごし方に変化をつけることで、日中は“思い切り活動し、そして夜はゆっくりと休む”といった生活リズムを定着することで利用者さんの生活に、よりメリハリを持たせられるよう支援をしていきたいと思っています。（生活支援員 盛 洋之）



(トークンエコノミーシステムの台紙)



### 3・4番ユニット

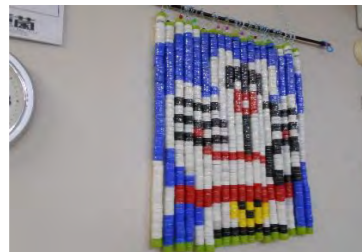


3・4番ユニットでは、読書や映画鑑賞に加えて、利用者さん同士や職員とコミュニケーションを図るなど、利用者さん自身がどのように過ごすのかを選び、日中活動を行っています。

その中に、特技を生かし、パズルやアイロンビーズなどの作品作りを行っている利用者さんもいます。これらの作品は、拓光園祭や作品展に出品し、展示・販売を行っています。利用者さん自身分たちの作った作品が買い上げられたことに対して達成感や、やりがいを持つことができているようです。

また、バスやタクシーなどの公共交通機関を利用した買い物や食事外出も行っています。利用者さんは欲しい物や食べたい物を事前にリストアップしており、それに沿った買い物ができるよう私たち職員がお手伝いをしています。

これからも、余暇の楽しみや自己選択できる機会をどんどん設けていきたいと考えています。（生活支援員 高田 直樹）



## 連続コラム 第1回『意思決定支援』って??



今回は、「行動の科学」をテーマにお話しさせていただきますこうと考えています。お楽しみに！！

今回より、全3回に分けてコラムを担当させていただき、藤森と申します。ここ数年で耳にする機会が増えた『意思決定支援』という言葉をご存知でしょうか？

今回のコラムでは、その言葉の意味や拓光園における今後の取り組みについてご紹介したいと思います。

2007年、日本が『国際障害者権利条約』を採択し、様々な法改正・法整備が進められてきました。その中で出てきた言葉が『意思決定支援』です。

この言葉の意味するものは、“どんな障がいをもっている方にも当然のように意思や想いがあり、それを発信したり決定できる権利がある”との考えを前提にサポートしよう、というものです。例えば、自動販売機でジュースを選んで購入することから、好きな洋服を選んで着ること、お店で好きなお菓子や本や雑誌を選んで購入すること、したくないことに対して嫌と言ったり反応したりすることなど、大小様々な意思決定場面が日常的にあり、その人に応じたサポートが必要になることがあります。支援者の価値観や生活習慣ではなく、あくまでその方の想いとしての決定をサポートすること、またその過程で社会的・一般的な事柄と折り合いをつけることも含めて、簡単なようでとても難しく重要なことです。

拓光園における『意思決定支援』とは、①そもそも選ぶ・悩む基となる『意思形成』の支援 ②形成された意思をその方らしい方法で表現・発信する『意思表出』の支援の二点から構成したいと考えています。様々な体験・挑戦の機会を通して意思の形成をサポートし、その意思をどんな方法や形態ならご本人らしく表現発信できるのかを考え提案し続けていくことで、その方の意思決定を支えていきたいと思っています。

最後に、『国際障害者権利条約』の会議の中で障がいをお持ちの方が「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」と発信されました。私にとっても大切にしている言葉のひとつです。一人ひとりが、自分らしく生活が送れるよう、まずはその『意思』をなによりも大切にしていきます。

(サービス管理責任者・主任 藤森 健吾)

### 新着任者のご紹介



名前：川原 千尋（事務員）  
出身地：弘前市出身、大鰐町在住  
特技：折り紙で薔薇が折れる!そしてアンパンマンを見ないで描ける!!  
マイブーム：ACIDMAN ← 10年以上マイブーム MAN WITH、JAY-Z & LINKIN PARK  
雑貨、文房具店巡り  
今後の抱負：法人会計の知識と理解を深める



名前：三浦 美納子（生活支援員）  
出身地：五戸町（元々は三沢市）  
趣味：ゲーム、映画  
特技：スキー  
マイブーム：カブセンターのおはぎとってもおいしい!  
今後の抱負：資格を取って、もっと役に立てるようになりたい